

校名：茨城大学附属特別支援学校

所在地：〒312-0032
茨城県ひたちなか市津田1955

電話番号：029-274-6712

記載日：平成28年5月20日 記載者：鍋木治 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は、茨城県水戸市に隣接するひたちなか市に位置し、定員60名の小規模な特別支援学校である。穏やかで気さくな児童生徒が多く、また、教師と保護者も和気藹々とした雰囲気の中で学校教育が進められている。茨城県は都心とも近く、各種研修にも参加しやすい環境であり、自己研鑽に励みながら教育実践に取り組みやすい学校である。近年は、ホームページや公開講座で積極的な研究成果の情報発信に努めており、地域への貢献度も高い。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ①進路指導主事が卒業後3年程度の追指導を行い、必要に応じて本人及び保護者に支援を行っている。
- ②卒業後3年を超える卒業生については、適時の状況把握には至っていない。年に1回開かれる同窓会等で卒業生の情報を交換している。情報は大学ではなく、学校に集約されている。
- ③一般就労の卒業生が約3割、福祉的就労が約7割である。退職したり、施設を退所したりする卒業生はほとんどおらず、多くは落ち着いて社会生活を送っている。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ①2年に1回、OBと現職の職員の親睦会（「ふよう懇話会」）があり、近況を把握している。受勲等の披露・祝賀会も実施している。
- ②OB職員の名前、連絡先、勤務先は、親睦会による情報を基に把握している。
- ③県教育委員会の指導主事や管理主事、管理職等の要職に就くOBが多い。公立学校においても、指導的立場となって活躍していることが多い。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

○ホームページによる情報発信

テキストによる各部の経営や校務分掌、研究内容の情報発信だけでなく、児童生徒の学校生活の様子を写真と合わせて毎日アップロードしている。また、研究に関わる指導場面についても、保護者の了承のもと動画をアップロードし、成果を発信している。<http://www.yougo.ibaraki.ac.jp/>
○茨城大学：新井英靖先生監修で、研究テーマ「感じる・考える・伝え合う授業づくり」の完結年度（平成27年度）に、同タイトルで明治図書より書籍を発刊した。

<http://www.meijitoshoco.jp/eduzine/interview/?id=20151034>

○地域の教育事務所と連携し、平成24年度から毎年、市町村指導主事や特別支援学級担当者を参加者として特別支援教育理解促進研修会を開催している。

平成 24～25 年度 授業参観及び教材展示

平成 26 年度 授業参観及び iPad 活用研修会（講演会，実践発表，活用演習）

平成 27 年度 授業参観及び構音指導に関する研修会（講話，演習）

OICT 活用実践研究（小学部 iPad6 台 中学部 iPad7 台 高等部 iPad23 台）

・小中学校における特別な教育的支援を必要とする児童生徒の困難を軽減するための iPad 活用実践研究を行った。

平成 27 年度茨城大学 COC 地域課題解決型特定研究プロジェクト

「ひろがるタブレットの可能性」 茨城大学・水戸教育事務所 共同プロジェクト

実践協力校 水戸市立石川小学校・水戸市立第一中学校

<http://www.yougo.ibaraki.ac.jp/coc/index.html>

本校で使用しているアプリ一覧 <http://www.yougo.ibaraki.ac.jp/diary/iPad.pdf>

○公開講座

・地域貢献として積極的に公開講座を企画した。特に近年は幼児向け公開講座を開き，早期支援に力を入れている。<http://www.yougo.ibaraki.ac.jp/kenkyu/koukai/27koukai-club.pdf>

<http://www.yougo.ibaraki.ac.jp/kenkyu/koukai/27koukai-kids.pdf>

○警察学校との交流

・平成 24 年度から毎年，警察学校の学生と本校児童生徒との交流を行っている。

○ムーブメント

・平成 20 年，イギリスのサンフィールド校と共同研究を行った。平成 20 年度以降，毎年公開講座を開き，地域の自立活動に関する教育力を高めている。

○写真

・平成 27 年度に茨城大学図書館で，大学広報室と連携し，「やどかりフォトクラブ写真展（Yadokari Photo Club 写真展）」を開催した。

（児童生徒が使用する機材等：地域のロータリークラブによる寄贈。）

<http://www.ibaraki.ac.jp/events/2016/01/171115.html>

・高等部生徒の写真作品を活用したオリジナルカレンダーを作成した。



○キャラクター「とんがりやどかりちゃん」を活用した積極的な広報活動をしている。

・本校から発信するパンフレット類には必ず本キャラクターを入れ，またクリアファイル・ボールペン・トートバッグ・バッジ・Tシャツ等を作成し，研究会や学校説明会等におけるPRに活用した。また，3Dプリンターで本キャラクターのフィギュアを作成し，様々な場所で撮影した記念写真をホームページで紹介している。（今年度，着ぐるみを作成予定）

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

ウェブページによる発信等により地域の特別支援教育のセンターとして理解啓発を行ってきた。公開講座等の積極的な開催により，特別支援教育の専門性向上の場として認識されていると考える。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

大学と連携し，専門家のアドバイスをもらいながら先進的な教育を実践し，その成果を地域の学校等に発信するなど，地方行政等の枠組みにとらわれず，自由な発想で教育に関する企画を実現することができる学校である。